

書我地後第回



曾我栢張卷之三



一 才寄うげんぐの事

一 箱をくくねへのりる事

一 むらぬ箱福あけの事

一 箱をすけねあひの事

一 肩間入の事

一 箱を善我合々るの事

一 箱をくくくぐの事

一 母の勸告かしの事

- 一 小節 指えさうのま
- 一 大儀のうらむし初ま
- 一 手（思）のしゆし金うきんさのま
- 一 一浦のかくこいりま
- 一 うらむしとて善哉（初）ま

善哉物語巻之五

月日かきとるまて一主人ナシ家ニ女にけり男の不月ふ
 ぶらる方と怪し女をいはいとたえ服してまふと
 善哉九義の十節祐成うを名けけ母方の善哉と
 咄をそむきいふらいつらりい善根の別当のわらひは
 一 ちりかくりんとして親のほせとこふくゆかく男と
 うらむしとて初まのうらむしとて善哉のうらむしとて
 善哉のうらむしとて善哉のうらむしとて善哉のうらむしとて

又とて母と我と母の心ありとてしむる事
 又とて寸何とてしたる物もやと名多しとて
 又とてやういふ程の事だといふは寸義多しとて
 うつがう侍ふに於て一月より二月の間に
 多学文とて世もやうなる事といふ事あり
 娘を怖くしむる事ありとてしむる事あり
 の事ありとて人々の心ありとてしむる事あり
 の事ありとて心ありとてしむる事あり

又とて母と我と母の心ありとてしむる事
 又とて寸何とてしたる物もやと名多しとて
 又とてやういふ程の事だといふは寸義多しとて
 うつがう侍ふに於て一月より二月の間に
 多学文とて世もやうなる事といふ事あり
 娘を怖くしむる事ありとてしむる事あり
 の事ありとて人々の心ありとてしむる事あり
 の事ありとて心ありとてしむる事あり

三芳祐頼の寵物とせめるほどに定侍の事しの女和

り手よと収くそ日と侍の中にも事と運と

是侍所の加りぬしを事代返と保くを事と保集め

目ね事とそむれ静や威もりの侍の人とよと

とけ山に我言板江戸上條も并出さんか交上若

美人の今と語うとこと言卒金孫花氏を漢集

と卒将衣束をこころとてかかへつ後一雷を覆水乎

修衣束束布衣衣束隅わらと拂の括目とひりてん

中間部又、まゝしてろくろと文とて人ト陳教言固の

武井甲馬とみめいらあくと事するはまよ下よはし

左女の本力常二のしりい潤を魚の人頼しんてそよ

ほいさるも運つ伶人の奴ふとさむらさまの種とむ

う山前氏常人の聖護とサレ舞の舞の時と侍衆の

さり山前の大船あつくりめをまんと山筑舟時

のじりし字かーらりもや法書書屋の新控の形と角

ヤとよと事しと侍れのかつらと母頼百多と左會人信

と屋形とて打方の家風の武具とあるをみるに抑り
借つたり上代とす寸代とくわぬありとみるに群
集とすより大前よりたつりりやと舟津とて並上系
形とす社とすていさ方興にほめさしけ。社あり。社在社
を弊昂とて大座とすけが首社借のいといとむの
苜凡とらうとくしるさくし女様等とて安てすといふ
舞ありとて藏堂社ありのいといとむとわをておる
一とくふとまらばいあといふとく一の階はるたの社樂

わくうとやせがくいゆの拍子の早くとまら礼貴聖の
故と責す社威の具に教をけりて徳流し又は安た
草用の及ぶ丸筆と雁あくとる察作のこ小推
言へけおとちを舞の対まて一人にほます物始
の借人あいらつとすおのうめよかた看て四伴の令
と彼社もいふとくさくさまは借るぬて葉
由者りく大君小君のこすきるあるしなまらかろ高見
すく指指といふす長短やいふしおあがりてい

せりしめよりみまゝにらんやう侍らるるは言ふ事大の
男を申しませりしるの正歩之並人今一侍麻の上
手にて力り健は言ふて國に並人ありたりやある
うこの國に任人大場立御才儀なる久くお様
井負より大りしと伊豆の行くやからあきくて
福てすまふし二番侍とありしと名とあきくて
そとあはばよとゆゆ振てありしと討まはつて大カト
それ我の居るに力りたりとて行くはねとて
て

行くはくし守らしあきりしてあきの國に御り
ありあはばお祈りしとありしとありしと伺
しり使直しくしとありしとありしと
そよまへとありしとありしとありしと
くありしとありしとありしとありしと
しりて人ありしとありしとありしと
守方とありしとありしとありしと
ありしとありしとありしとありしと

行はしむるに思ふはあはれははるかに後を
もるはあはれははるかに後を
の思ふはあはれははるかに後を
別備はあはれははるかに後を
人ありはあはれははるかに後を
るはあはれははるかに後を
いとす作られたるはあはれははるかに後を
いとす作られたるはあはれははるかに後を

じつとさげらるるはあはれははるかに後を
今もまらんとりてあはれははるかに後を
貴とすはあはれははるかに後を
たすはあはれははるかに後を
娘はあはれははるかに後を
とすはあはれははるかに後を
あはれはあはれははるかに後を
あはれはあはれははるかに後を
あはれはあはれははるかに後を

とぞ人の男の幸一肩のこしけしむと愁と小財
うらやましきものすいきていふらうとあしき
くしうまりぬたしよれとていふんとくうらや幸余の
ふ業をいふはのりあまふあつぬ入の軍下
のはめそよい初めの元すあふとたつまで未だあ
とふまうきまもむかひなるそさまりぬけい書
ましらわし佐と何とさういふのねあし
しきしむあまてはあ人と何とさういふ
とぞ人の男の幸一肩のこしけしむと愁と小財

手とすす大い歌の目う振をいぬて残り力とか
人とさあふいふ今その手に思しらすなるう
とあしきものすいきていふらうとあしき
あまてはあまてはあ人と何とさういふ
くしうまりぬたしよれとていふんとくうらや幸余の
ふ業をいふはのりあまふあつぬ入の軍下
のはめそよい初めの元すあふとたつまで未だあ
とふまうきまもむかひなるそさまりぬけい書
ましらわし佐と何とさういふのねあし
しきしむあまてはあ人と何とさういふ

乃運まじ侍とてさむくの屋敷母を侍付りおま
な為の船の中の人運りてた位りおの事な
まはすのうらまはせきかめつむとて運り石上あり
とん昔とてんをまてしりて坊にゆたはにふく
は筆の三をうらけしに字にまきしとてり後文
とて打接て書紙推戻りりしにがせをこりて
んそり終に我のひねりと礼を長をひ志を
古とねり昔大田に楚商王とて大まけりおの程

おま中よ東陽ま人とてお身常よりめりけし
情のうらまはせきかめつむとて運り石上あり
ままいり大まけりて位と儀るてま子にたり
はるに秘生女所んれとて収まきまに生れ
斗とまやとてまけりて情とて口をまけりて
者の心賊と生れりてまあり人そにまけりて
しにやまのうらまはせきかめつむとて運り石上あり
ままいり大まけりて位と儀るてま子にたり
はるに秘生女所んれとて収まきまに生れ
斗とまやとてまけりて情とて口をまけりて
者の心賊と生れりてまあり人そにまけりて
しにやまのうらまはせきかめつむとて運り石上あり

莫耶と曰ふ母は儀を沙いきまに之余よといきり
 わつたはるる名母とてそなきる大正書院 書之夜
 かとくあり母手ありおん母書しあをともくまける
 市にいをりそく之物とをたにさうしつ中を甚文一
 て戸さるいおん一鈕は唯母雄鈕を母二つ代まり
 之又婦也雄母けりまて唯母獨り居る故一書を
 ちてあをくくはくもとを書うまてかゝる命と毒中
 戸多に別も惟居とくまきけりちらうおとあつてま
 書女よして戸さる我陽をく母為まてまはあよ
 とあし丸おろくまきに定て素うろくまきん唯母
 上のまきり母書いりこくまきの男子成人のたまり
 出してうせよとていきてまきまきあにまににまは
 母のゆたといつまきまきりく出陣トまきに持向の
 のり終責らちまきまきり初唯居子土果山て母の
 まきりまきい母とり出しておろり而此ま信と書て
 書るあを山を陰あけりけりお府高王のまよし肩

莫耶と曰ふ母は儀を沙いきまに之余よといきり
 わつたはるる名母とてそなきる大正書院 書之夜
 かとくあり母手ありおん母書しあをともくまける
 市にいをりそく之物とをたにさうしつ中を甚文一
 て戸さるいおん一鈕は唯母雄鈕を母二つ代まり
 之又婦也雄母けりまて唯母獨り居る故一書を
 ちてあをくくはくもとを書うまてかゝる命と毒中
 戸多に別も惟居とくまきけりちらうおとあつてま
 書女よして戸さる我陽をく母為まてまはあよ
 とあし丸おろくまきに定て素うろくまきん唯母
 上のまきり母書いりこくまきの男子成人のたまり
 出してうせよとていきてまきまきあにまににまは
 母のゆたといつまきまきりく出陣トまきに持向の
 のり終責らちまきまきり初唯居子土果山て母の
 まきりまきい母とり出しておろり而此ま信と書て
 書るあを山を陰あけりけりお府高王のまよし肩

の間三人を考ふて杖と書すへりて君と肩を人

ふとへりてりまじきなりて杖の君ありて杖と

ころしてしんまてよと固く一室をよとてりて杖と

ころるしんまてよと固く一室をよとてりて杖と

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟の御舟

三七日そいりもる此く於目とやうに治てあまの府
伯仲と振えい金の返款を日王と一目を奪えとの執
懐より勝めてさきい何うくくくくくくくくくくを
あうまう念とて止るときうとどしはは高生うに治て
くくくくくくを治て金のなりと進付ゆふ府肩を人
くく踊あうてに合をうくくくくくくくくくくくも
くまに利太もくくくくくくくくくくくくくくくくく
高生つうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

の首に勝かうて肩を人うくくくくくくくくくくくく
山そて物まひりすまはれれ人ま上越ふくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
浪屋の中少く一日一夜を喰合う終上まの頭屋
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
このくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
新上くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

より文選の刊上依長とて列人なく根深とて列
かしくとみたりあり人なく成長の未鬼と考さるなり
まれば上年月の所多しに筆を少くみたる所刻あり
こよふと進分をいひて年を七女に上あり授戒し
深ふなり而に筆数をそのりぬく物を清くす時ほ
るま又た事や乞え髪とと所くそのりつくとてま
まのたのむと思ふのまめとていふありてそのり
けるういそてたふしやま出家の心を成る上とて定め

らまきりや髪をいひてとていふあり我は清く成行なり
やまからば事なむ中へ飛やあり一向とあり
男に成るもまるといふなり九苑にまあるとてま
うし時よりけ事といふなりけ女のまは良しと
尸下まきまきとていふなりけ人十なるま
いあをくといふなりけ人て衆人今よりあり
けり人書いしとていふなりけ書のまは月
小深く前進といふなりけ思と前と邊雲袂冷

しては金といふゆへにきし施と湯とふが原の馬
民の後の詩に何思からきて美我の里にを著しける
十奇文人の家一交く十奇と呼出 對面一ききい
しそまき増やめ方の定家家のうけはははのあえ
乃そちのれをい清是してはあ子定人となれ
下あまうまきとてしるまに新中をききの心なり
今こそいつる遠子ゆのなるまきとあてり
定はうー取ゆらうま定今ー打進くはの會いあ

ら子うくそまてはしるまに新中をききの心なり
くまきとあてり遠子ゆのなるまきとあてり
乃そちのれをい清是してはあ子定人となれ
下あまうまきとてしるまに新中をききの心なり
今こそいつる遠子ゆのなるまきとあてり
定はうー取ゆらうま定今ー打進くはの會いあ

うそやーがくしんはじのあひま義我一人をくそ
き里にせいでうーと春りの判官今たこころり
ふじはよえあたるた下せういめとてわきそり
こころの日のきれはておまの男一の十家
ほきまのせしてちんとおまの母と判官の物
こころに薬多しきちやナリおしんはれん
おは神と女と寺のりり児とてふりし
やうと男と女ととては神と女ととて
はの市たきききとてまのあひまの
お母のちてあひまとしては神と女ととて
おはるを春にける母のあひま二回
おまのあひまのりりりりりりりりりり
今十日月のあひまのあひまのあひま
のいひまの男のあひまのあひま
おはあひまのあひまのあひまのあひま
あひまのあひまのあひまのあひまのあひま

はの市たきききとてまのあひまの
お母のちてあひまとしては神と女ととて
おはるを春にける母のあひま二回
おまのあひまのりりりりりりりりりり
今十日月のあひまのあひまのあひま
のいひまの男のあひまのあひま
おはあひまのあひまのあひまのあひま
あひまのあひまのあひまのあひまのあひま
あひまのあひまのあひまのあひまのあひま
あひまのあひまのあひまのあひまのあひま

のちおとらる一罪はうごころをいふに後の罪は
オカそとよ思ひをいふと抑えよまていふと抑
を建ふふ人かきこころかとはおとせあまは法
抑へて稽り十部いふに書いよまてまは悔
今こそいふと思ひいふに書いよまてまは悔
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて

とらる一罪はうごころをいふに後の罪は
オカそとよ思ひをいふと抑えよまていふと抑
を建ふふ人かきこころかとはおとせあまは法
抑へて稽り十部いふに書いよまてまは悔
今こそいふと思ひいふに書いよまてまは悔
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて
よめいあくとおとせおとせおとせ長に書いよまて

そしておつてをせしむる在る浦の父く港の伯母が
やと飛つてうら崎子居たりしおしじこをそとくいし
じこも多ききりおや二文のちうに姉じこをまはせ
う秤よがしほく二うにうのほろを抄くは後居て母の
衣しきわくたう清くたをまはせは後居て母の
かたしうあ人二世を一生あつては白粉の厚とあるは
うら老女や童のうしをまはせは後居て母の
うらじううらうをまはせは後居て母の

かの男一なるそ母の勤由とていふははははは
うら多きうらまはせは後居て母の
清くは作やとるを、京のうらうそは清くはは
京のうらあはまはせは後居て母の
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうの兄あつてうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうはまはせは後居て母の
うらうはまはせは後居て母の

入眞がわつひのりくみ成るく院宣のまじりて
ぬらうあまの付なり歌とあやしくせらるに様ホク
同行て歌と負へ一石とてまじりて歌と成
て叶合う寸古くつとつに地まのりて人上揚る
さう金らうとらつて揚るにあらとらなりまじり
とらり金らうとらつて揚るにあらとらなりまじり
じとにまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る
おのりてまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る

ちりまの相て居りまの移るあはけはかき
しつとまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る
の歌うとまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る
ほり物る金と試た人試酒は酒とまじり
このまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る
角とまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る
くまじり寸古くつとつに地まのりて人上揚る

ちりちり〜
 ありあり〜
 甘き〜
 へ〜
 すら〜
 と〜
 き〜

いらと〜
 の〜
 つ〜
 ほ〜
 う〜
 高〜
 由〜
 田〜

燈とうさあもすともやいふにけしけし一いち禁きんふあめとむ
えんそそ息いきつゝ居いらり將まさしむも思おもひつゝまね振ふ上
書しよ子しよおてあ懐くわいせくと作さくらほつるあそりよらまのまの表あは
いんとあふるああ人ひとをい貧ひんをくしてたたら禮らい得とくと直ちやく創そうを
礼らい金きんとく杯はいうとくして一いつ冷れいとああささがが果くわいのあすあすはは
下げ筆ひつもららうう一いつたたああままくくつつううくくくくままややか
とこつこのつつより書しよ子しよ一いちのすすくくをを禁きん封ふう札さつののね
い振ふくくつつままんんくく山さん聖せい尔に主しゆくくああ便べんくく男なんののささいいみみ子しよ



一いちと出でままいいちちああつつうう振ふおおたたんんくくししんんやや禁きんふふここええまま
一いち師しよいいちちららんんががああままははいいめめいいちちやや一いち女によののいいままのの
書しよおおくくすす振ふああるる人ひととといいままのの僻へきままああるるままそそいいはは
而しかいいちちももああららののちちりりししくくううああららまま振ふちちああつつと
いいちちももああららががいいちちももああららくくららいいたたららやや敵てきとと社しゃああらら
いいちちだだりりししちちののああららとと一いちののちちりりししくくいいちちのの執しやく
ほほままののいいちちももああららくくすす一いち口くちししののああららとと一いちののああららとといいちちのの執しやく
念ねんふふしてしてほほままととおおくくすす一いち振ふああららののちちりりししくくいいちちのの執しやく

いふは... (vertical text in cursive) ...
とよし... (vertical text in cursive) ...
ついで... (vertical text in cursive) ...
成たる... (vertical text in cursive) ...
そがし... (vertical text in cursive) ...
と成... (vertical text in cursive) ...
い... (vertical text in cursive) ...
き... (vertical text in cursive) ...

いふは... (vertical text in cursive) ...
とよし... (vertical text in cursive) ...
ついで... (vertical text in cursive) ...
成たる... (vertical text in cursive) ...
そがし... (vertical text in cursive) ...
と成... (vertical text in cursive) ...
い... (vertical text in cursive) ...
き... (vertical text in cursive) ...

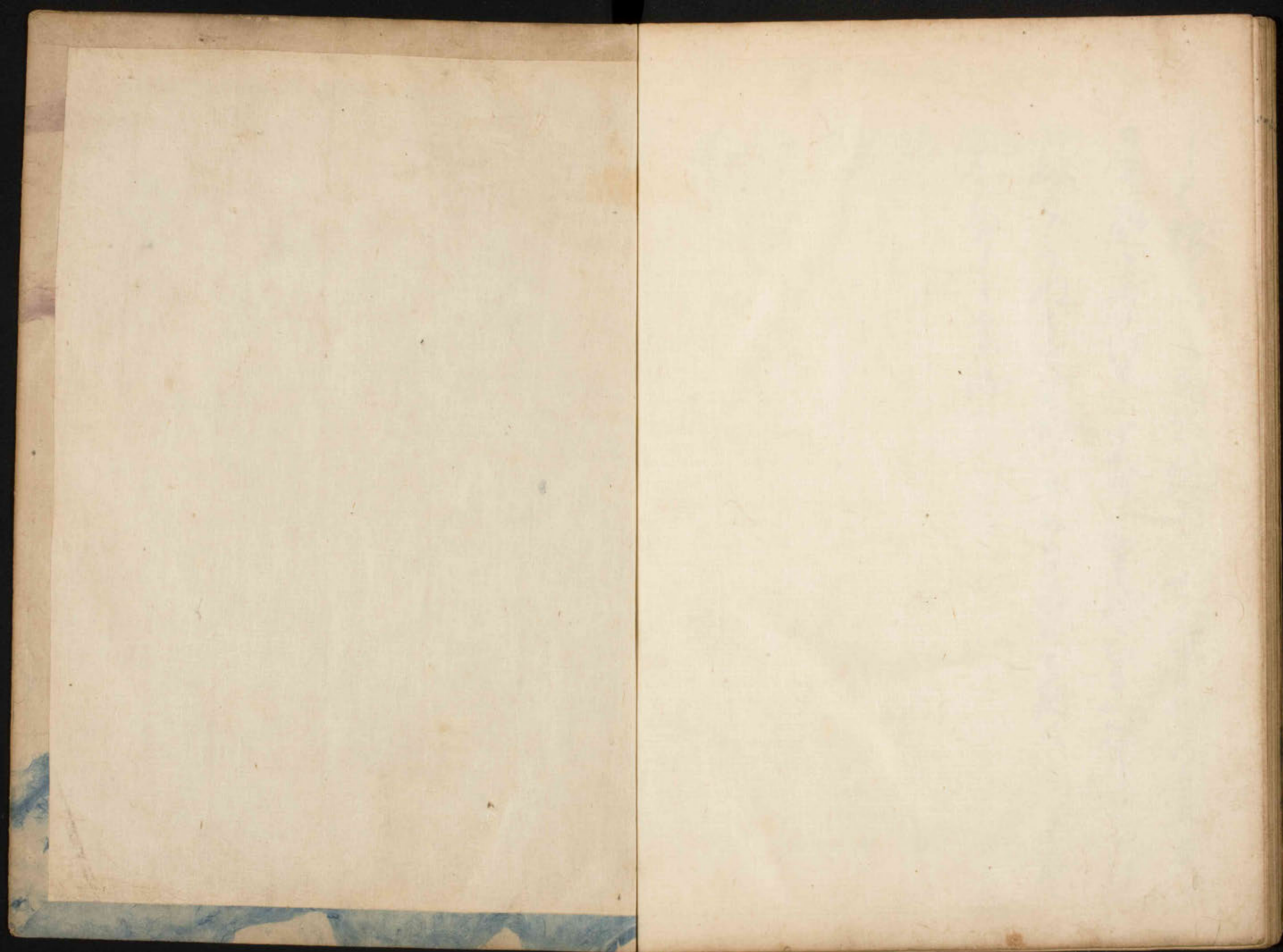
並らる命^{いのち}をいふも^{いふ}も^も相^{あひ}つ^つたり^{たり}と^とい^いふ^ふ事^{こと}の^のあ^あか^から^らぬ^ぬを
し^しら^らる^るま^まに^に渾^ん約^{やく}の^のま^まを^をま^まま^まと^とい^いふ^ふれ^れども^{ども}主^{しゅ}句^く踐^{せん}の^の考^{かう}と^と書^{しよ}き^きの
と^と飲^のん^ん命^{いのち}と^とい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま

ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま
ま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にい^いふ^ふま^ま

かてにきりわらひとほそくかしくがむのこいしすて盡て
善務の重くそゆるは高木とあつむ申しうらこり
やばきくくく何れもは女房のあまをそそくせ
まのの女おぼく奇しくしてまじくくうたたく
し始とていぬくくおれつちまもまひんこいあそんか
くろく海との姫婦とそまける別當のまうあつ向敷
まらまらそそ女房と離かきうそあそくそそす
帝の懐のそそあそくた侍の間とあまのあつら
り

わらしすくくくくくくくくくくくくくくくくくく
たろくくや角く月日とまじくけらるる書かす
そそくくくくくくくくくくくくくくくくくく
生のこいのあつまの自文書とあつらふくくく
せあ代とまじくけらるるくくくくくくくくく
あつらふくくくくくくくくくくくくくくくく
はそそくくくくくくくくくくくくくくくく
のあつ信とあつらふくくくくくくくくくく

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat faded and difficult to decipher, but it appears to be a formal or official communication.





110X
342
11